三役好転は、件数を減らす以上のことをしていない [F052]

三つの条件を全部掛けると件数は 36,459 本から 11,876 本へ 3.0700 分の一になるのに、方向の値は +1.5497 から +1.7419 pips へ 0.1922 しか動かず、同じ通過率の無作為な条件との差は平均の標準誤差を下回る

山岸 勇輝（Yuuki YAMAGISHI）／Independent Researcher
ORCID 0009-0006-8587-3450
2026年9月／CC BY 4.0

要旨

本稿が問うのは、条件を三つ掛けることが、件数を減らす以外に何をしているか、である。新しい数学定理も新しい法則も主張しない。

第一に、**★ 件数は大きく減る。** 三つ全部で通過率 **0.3336**、件数は **36,459** 本から **11,876** 本へ **3.0700** 分の一になる（第3節）。

第二に、これが本稿の芯である。**★★ ところが方向の値は動かない。** D は **+1.5497** から **+1.7419** pips へ、**0.1922** しか動かない（第3節）。

第三に、**★★ 同じ通過率の無作為な条件と、区別がつかない。** 三つ全部での差は **+0.1984** pips で、平均の標準誤差 **0.6338** を下回る。七通りの差 ÷ ばらつき は中央 **0.8892**、最大 **2.0235** である（第4節）。

第四に、**★ 三つの条件は独立ではない。** 実際の通過率は三つの積の **2.9314** 倍である。**別々のことを言っているのではなく、同じ上昇を三回言い換えている**（第5節）。

第五に、**★ 合成乱数でも同じ形になる。** 三つ全部の通過率は **0.3435**、D は **+1.1826** pips、積との比は **3.0702** 倍である（第6節）。

第六に、**★ 日次 t は下がる。** **+0.9962** から **−3.3964** へ動くが、これは件数と符号の変化であって、方向の情報が増えたことではない（第3節）。

本稿の射程（scope note）：新しい数学定理も新しい法則も主張しない——条件を掛ければ件数が減ることは自明である。**特定の商材や提唱者を論じない**——実在の教材、その著者、販売元は主題ではなく、一切名指さない。**売買を論じない**——成績もコストも測っておらず、出口も論じていない（第7節）。**一目の期間を慣用に固定している**——9 / 26 / 52 / 26 である（第7節）。**買いだけを見ている**——三役好転は買いの宣言だからである（第7節）。**射程は日中・少数銘柄に限る**——四銘柄・六年の測定である。月次の時系列モメンタム（数十市場・保有1〜12ヶ月）は学術的に文書化されており、本稿はそれを否定しない。**予測を主張しない。**

1. 記法と問い

「三役好転」は、三つの条件を同時に満たした状態を指す。

条件	中身
①	転換線が基準線の上にある
②	価格が雲の上にある
③	遅行スパンが二十六本前の価格の上にある

観察 1.1：★ **条件を足せば件数は減る。それは定義から決まっている。 問題は、減った分のほかに何かが起きているかである。**

観察 1.2：★ **雲は二十六本前の先行スパンを見る。 未来にずらして描いた過去であることは [F002] で測ってある。本稿もその規約で組む。**

観察 1.3：**本稿の分離子は、条件をいくつ掛けたかである。** 銘柄・期間・格子・先の長さをすべて固定し、**掛ける条件の数だけを変える。**

問い：条件を掛けることと、無作為に同じ割合だけ間引くことは、区別がつくのか。

---

2. 測る量と設計を、先に書く

走らせる前に宣言し、実行時には変えていない。

格子	1時間足（中値・完成足のみ）／ 先の長さ 24 本
一目	転換線 9 / 基準線 26 / 先行スパンB 52 / 先行のずらし 26 / 遅行 26
条件①	転換線 > 基準線
条件②	終値 > 雲の上端（**二十六本前**の先行スパン A と B の大きいほう）
条件③	終値 > 二十六本前の終値
向き	買いだけ（＋1）。三役好転は買いの宣言である
D	平均（向き × これから先の値動き）。単位は pips
t	日次クラスタ
対照	**★ 同じ通過率の無作為な条件**（20 回引き直して平均）
基準線	足の中まで合成乱数（3 系列）
分離子	**条件をいくつ掛けたか**（中身か、件数か）
銘柄・期間	USDJPY・EURUSD・GBPUSD・XAUUSD／2019–2024

観察 2.1：**★ 対照が要である。 件数だけ同じに減らして、中身は無作為にする。それに勝てなければ「選んでいる」のではなく「減らしている」だけである。**

観察 2.2：使える足は **USDJPY 36,459・EURUSD 36,479・GBPUSD 36,460・XAUUSD 34,817** 本である。 ★ 三つの条件はすべて、その足の終値までの情報だけで決まる。

観察 2.3：八通りの組み合わせすべて（条件なしを含む）で測る。 ★ 一つずつ、二つずつ、三つ全部を並べる。

予言（測る前に書いた）

① 条件を足すごとに、件数がほぼ掛け算で減る。

② **★★ D（向き × 先の値動き）は動かない。**

③ **★★ 同じ通過率の無作為な条件と区別がつかない。**

④ 日次 t は、件数が減るぶんだけ下がる。

⑤ 合成乱数でも同じ形になる。

⑥ ★ 三つの条件は互いに強く相関しているので、通過率は三つの積より**大きい**。

---

3. 条件を足すと、何が減って何が減らないか

計算 3.1 八通りの組み合わせ（四銘柄の中央）

条件	通過率	件数	D（pips）	日次 t
（無し）	1.0000	36,459	+1.5497	+0.9962
①	0.4875	17,359	+2.2067	−2.4906
②	0.4499	16,018	+1.8605	−4.1092
③	0.5202	18,526	+2.2766	−3.8491
①＋②	0.3493	12,436	+1.9381	−3.3247
①＋③	0.4197	14,946	+1.9462	−2.8816
②＋③	0.3956	14,085	+1.7807	−4.4914
①＋②＋③	0.3336	11,876	+1.7419	−3.3964

観察 3.2：予言①は当たった。 件数は **36,459** 本から **11,876** 本へ、**3.0700** 分の一になる。 ★ 条件を重ねると、そろえた分だけ件数が減ることは **[F010]** で測ってある。本稿はそれを一つの指標の中で見ている。

観察 3.3：★★ 予言②も当たった。**D** は **+1.5497** から **+1.7419 pips** へ、**0.1922** しか動かない。

観察 3.4：★ 一つずつでも動きは小さい（**+1.8605** から **+2.2766**）。そして三つ全部にすると、むしろ一つだけのときより下がる。

観察 3.5：日次 **t** は **+0.9962** から **−3.3964** へ動く。 ★ だがこれは件数と符号の変化であって、方向の情報が増えたということではない。次節で対照と比べる。

---

4. 同じ通過率の無作為な条件と、区別がつくか

件数だけ同じに減らして、中身は無作為にする。それと比べる。

計算 4.1 三役と無作為（四銘柄の中央）

条件	D（三役）	D（無作為）	差	平均の標準誤差	無作為のばらつき	差 ÷ ばらつ
①	+2.2067	+1.5718	+0.6350	0.5377	0.5220	1.216
②	+1.8605	+1.6521	+0.2084	0.5458	0.4150	0.502
③	+2.2766	+1.5147	+0.7619	0.5236	0.3765	2.023
①＋②	+1.9381	+1.5077	+0.4303	0.6169	0.4076	1.055
①＋③	+1.9462	+1.5192	+0.4270	0.5789	0.4802	0.889
②＋③	+1.7807	+1.5064	+0.2743	0.5847	0.4629	0.592
①＋②＋③	+1.7419	+1.5435	+0.1984	0.6338	0.4925	0.402

観察 4.2：★★ これが本稿の芯である。三つ全部での差は **+0.1984 pips** で、平均の標準誤差 **0.6338** を下回る。

観察 4.3：★ 差 ÷ ばらつき は中央 **0.8892**、最大 **2.0235** である。 **2** を超えるのは③だけで、七通り中一つである。

観察 4.4：★★ そして条件を足すほど、差は小さくなる。 ③だけなら **+0.7619**、三つ全部なら **+0.1984** である。条件を重ねるほど、無作為な間引きに近づく。

観察 4.5：★ つまり三役好転は、件数を減らす以上のことをしていない。「選んでいる」のではなく「減らしている」。

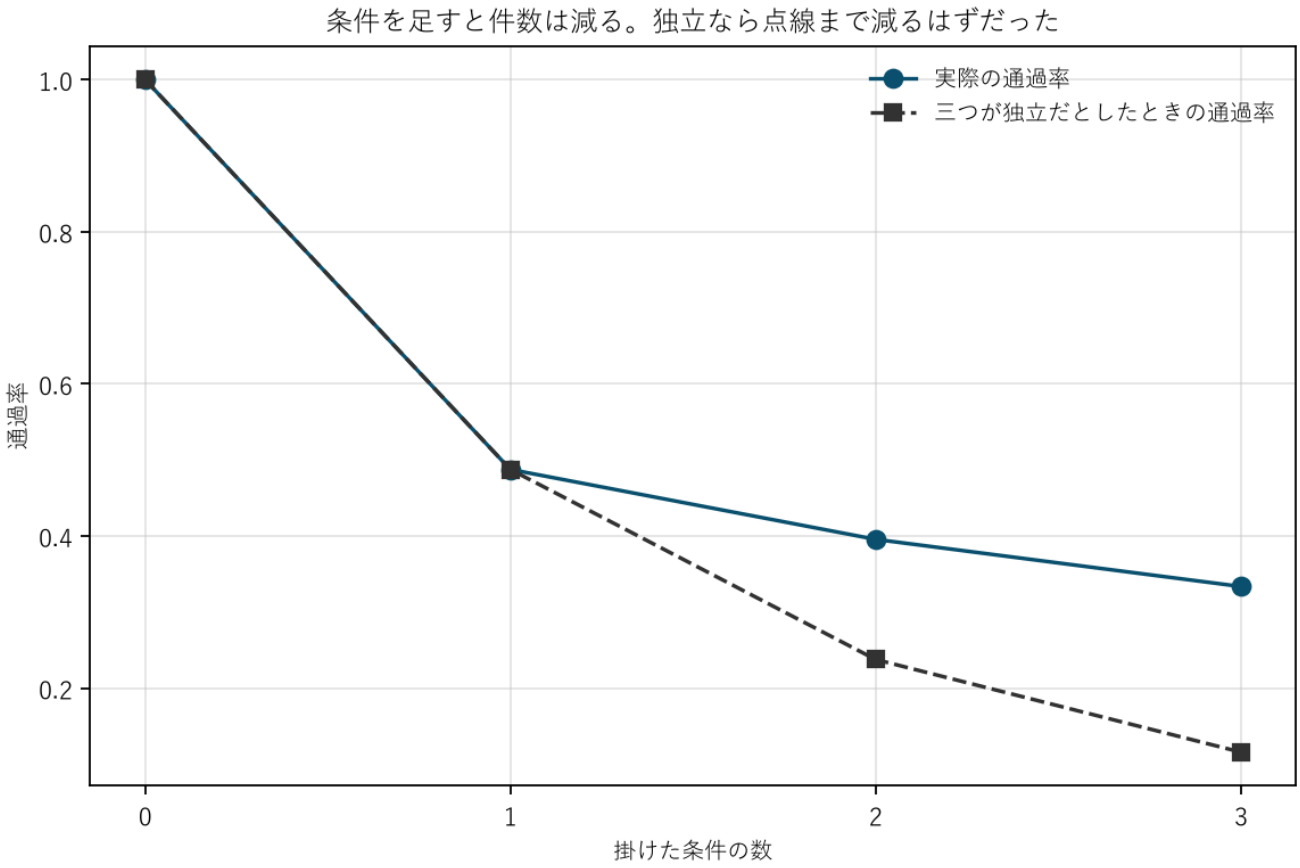


図1：横が掛けた条件の数、縦が通過率。**丸が実際の通過率、四角が三つが独立だとしたときの通過率である。**

---

5. 三つの条件は、独立に掛からない

計算 5.1 通過率と、三つの積

銘柄	①の通過率	②の通過率	③の通過率	三つの積	実際の通過率	実際 ÷ 積
USDJPY	0.5276	0.5048	0.5449	0.1451	0.3772	2.5993
EURUSD	0.4576	0.4157	0.4948	0.0941	0.3054	3.2454
GBPUSD	0.4705	0.4318	0.5043	0.1024	0.3181	3.1048
XAUUSD	0.5045	0.4680	0.5361	0.1266	0.3491	2.7579

観察 5.2：予言⑥は当たった。 ★ 実際の通過率は、三つの積の **2.9314** 倍である。

観察 5.3：★★ つまり三つは別々のことを言っているのではない。 同じ上昇を三回言い換えている。

観察 5.4：★ 独立だったなら、通過率は **0.1451** から **0.0941** まで落ちていたはずである。 実際には **0.3772** から **0.3054** までしか落ちない。

観察 5.5：★ これは第4節と同じことを、別の角度から言っている。 三つとも同じ価格から作られているので、同じ向きを向く。

---

6. 合成乱数で同じことをする

計算 6.1 実測と合成乱数（四銘柄の中央）

条件	実測の通過率	合成乱数の通過率	実測 D	合成乱数 D
（無し）	1.0000	1.0000	+1.5497	+2.1154
①	0.4875	0.4917	+2.2067	+2.3377
②	0.4499	0.4497	+1.8605	+1.7527
③	0.5202	0.5100	+2.2766	+2.2634
①＋②	0.3493	0.3608	+1.9381	+1.4874
①＋③	0.4197	0.4246	+1.9462	+2.1049
②＋③	0.3956	0.3945	+1.7807	+1.8762
①＋②＋③	0.3336	0.3435	+1.7419	+1.1826

観察 6.2：予言⑤は当たった。 ★ 合成乱数でも三つ全部の通過率は **0.3435** で、実測の **0.3336** と近い。

観察 6.3：★★ 合成乱数でも、実際の通過率は積の **3.0702** 倍である（実測は **2.9314** 倍）。条件が重なるのは市場の性質ではなく、三つとも同じ価格から作られているためである。

観察 6.4：★ 合成乱数の D も **+1.1826 pips** で、実測の **+1.7419** と近い。 ★ この基準線が何についてゼロなのかは **[F033]** で測ってある。

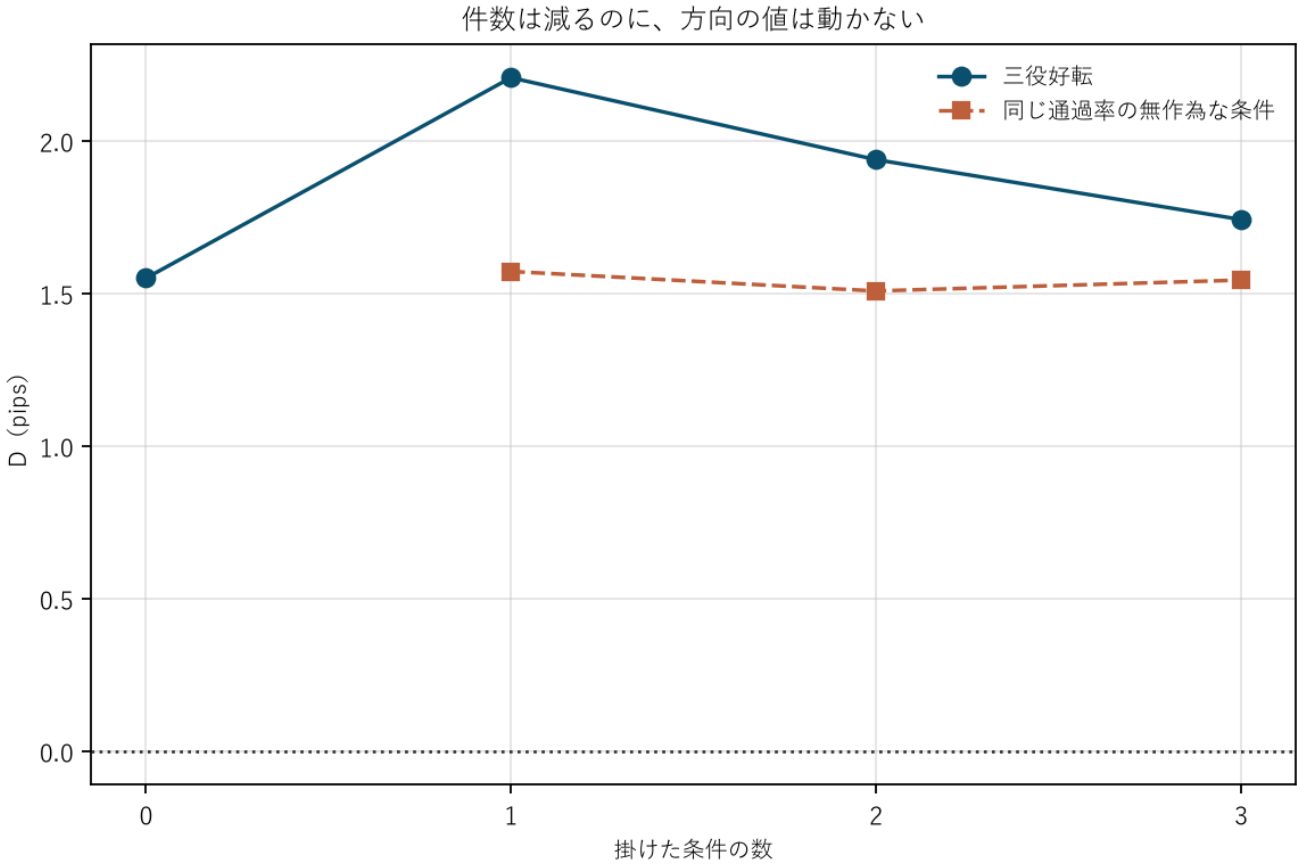


図2：横が掛けた条件の数、縦が D（pips）。**丸が三役好転、四角が同じ通過率の無作為な条件である。**

---

7. 限界

1. ⚠️ **出口を論じていない。** 固定の先までの値動きで測っており、利確も損切りも入れていない。
2. **一目の期間を慣用の 9 / 26 / 52 / 26 に固定している。** 別の期間なら通過率も変わる。
3. **先の長さを 24 本に固定している。**
4. **買いだけを見ている。** 三役好転は買いの宣言だからである。売りの「三役逆転」は測っていない。
5. **売買の成績もコストも測っていない。**
6. **無作為な対照を 20 回しか引いていない。** ばらつきの推定はそのぶん粗い。
7. **四銘柄・六年である。** 他の市場、他の期間について述べるものではない。

結び

三役好転は、三つの条件を同時に満たした状態である。条件を足せば件数は減る。**それは定義から決まっている。問題は、減った分のほかに何が起きているかである。**

★ 件数は 36,459 本から 11,876 本へ、3.0700 分の一になる。

★★ ところが方向の値は動かない。 D は **+1.5497** から **+1.7419** pips へ、**0.1922** しか動かない。

★★ そして同じ通過率の無作為な条件と、区別がつかない。 三つ全部での差は **+0.1984** pips で、平均の標準誤差 **0.6338** を下回る。**差 ÷ ばらつき は中央 0.8892 で、2 を超えるのは七通り中一つだけである。**

★★ しかも条件を足すほど、差は小さくなる。 ③だけなら **+0.7619**、三つ全部なら **+0.1984** である。**条件を重ねるほど、無作為な間引きに近づいていく。**

★ 理由の一つは、三つが独立ではないことである。 実際の通過率は三つの積の **2.9314** 倍で、**別々のことを言っているのではなく、同じ上昇を三回言い換えている。**

★ それは市場の性質でもない。 合成乱数でも積の **3.0702** 倍であり、通過率も **0.3435** で実測の **0.3336** と近い。**三つとも同じ価格から作られているからである。**

だから「三つの条件が揃った」と言うときに確かめるべきなのは、揃ったかどうかではない。★ 同じだけ件数を減らす無作為な条件に勝っているかどうかである。 本稿の測定では、勝っていない。

データと再現

データ	為替は Dukascopy 由来のティック（2019 年以降はミリ秒・bid・ask まで一致することを確認済み）。金は Dukascopy
期間	2019–2024（六年）
銘柄	USDJPY・EURUSD・GBPUSD・XAUUSD
足	1時間足・中値・完成足のみ
一目	転換線 9 / 基準線 26 / 先行スパンB 52 / 先行のずらし 26 / 遅行 26
条件	① 転換線 > 基準線 ／ ② 終値 > 雲の上端（26 本前の先行スパン A と B の大きいほう）／ ③ 終値 > 26 本前の終値
向き	買いだけ（＋1）
D	平均（向き × これから 24 本先の値動き）。単位は pips
t	日次クラスタ
対照	同じ通過率の無作為な条件。20 回引き直して平均
基準線	足の中まで合成乱数（3 系列）
検算	`検算/F052.py`（`--zu` で図も書き出す）。本文の数字はすべて `検算/F052_output.txt` から取っている
図	`図/F052_zu1`・`図/F052_zu2`（png・svg・英語版）
乱数の種	固定。再実行しても同じ値が出る
土台の検査	`_ツール/audit_bars.py`（足の先読み・夏時間・日の区切り）。記録は `_土台の検査.txt`

参考文献

- 山岸勇輝 (2026). 一目均衡表の雲は、二十六本先へ描いた過去である [F002]. Zenodo. 10.5281/zenodo.22880552
- 山岸勇輝 (2026). 多時間軸をそろえても、そろえた分だけ件数が減る [F010]. Zenodo. 10.5281/zenodo.22891380
- 山岸勇輝 (2026). 合成乱数には、ボラティリティの群れが無い [F033]. Zenodo. 10.5281/zenodo.22893674